

◆共通概念 レジュメ

『スピノザ 実践の哲学』ジル・ドゥルーズ *P.103 「共通概念」章

■ 共通概念は一般的な観念である。それは抽象的観念とは区別される。

抽象的観念＝<類>や<種>、<人間>、<動物>等、人間の想像力によって作り出される虚構概念(「観念」章参照)

共通概念・・・身体や物体間の相似性の観念。一般性には高低がある。

一般性が低い観念→私と他の物体の2つの体に共通である観念

一般性が最も高い観念→全ての体に共通な観念。具体的には延長、運動、静止(間接無限様態の認識)

■ 共通概念は物体間の構成的合一の観念である。

すべての物体と個物は、持続において、互いに組み合わさったり対立し合ったりする。

何か共通なものから、不一致や対立がおこることはない。したがって共通概念は物体間の構成的合一を表し、不一致を表すことはない。

しかし、一般性の高い共通概念を認識することによって、ものの不一致の本性を内的に理解することができるだろう。

なぜなら共通なものをあまり持たない個体同士が、対立しあうのを理解することは容易だからである。

※枕と頭の関係

■ 共通概念の適用の秩序と形成の秩序

一般性の高い観念から共通概念を説明するスピノザ→神の視点、共通概念は必然的に十全であることを示す思弁的動機。

しかし現実の生において共通概念を形成するためには、一般性の低い観念から始めなければならない。

感情には喜びと悲しみの二種類しかないが、喜びの感情は共通概念の誘因である。

※他の個体からの触発・変様「アフェクチオ」→活動し、思惟する力の増減である情動(感情)の発生。「アフェクトゥス」(「変様」章参照)

<共通概念形成の順序>

1、我々と親和性が高い他の物体と出会うことにより、受動的情動としての喜びの感情が発生

2、我々の身体と他の物体とに共通なものの観念を形成する。すなわち共通概念の形成。

3、喜びの感情の十全な原因を理解することによって、受動的感情は能動的感情に変化する。

4、能動的感情は活動し、思惟する力を増大させる。我々はより理性的となり、他との出会いを組織し、より一般的な共通概念を形成することが可能になる。

5、より一般的な共通概念は、我々と一致しない対象がなぜ一致しないのかを内的に理解させ、理解することによって喜びの感情が生まれる。

共通概念を形成することは、我々自身が理性的になることと同じことであり、我々が理性的になればなるほど、

理解し、活動する力が増大するため、共通概念を形成することが容易になる。再帰的形成。

「共通概念あるいは能動的生成にはまさしく徒弟時代というものがある。」(『スピノザと表現の問題』P.304) ⇔ フーコーの「自己への配慮」

■ 共通概念は第二種の認識である。

共通概念は第一種の認識と第三種の認識の橋渡しをする。

第一種の認識・・・各体が我々の身体の上に残す痕跡の観念(想像知)。つまり身体の変様の観念。十全な観念ではない。情動=記号の論理

第二種の認識・・・共通概念。コンセプトの論理

第三種の認識・・・直観知。本質と特異性の体系。光の論理

} 理性的認識

共通概念は、想像知から生まれ、それとは区別される知性的な認識である。

共通概念は、神を事物のあらゆる構成的な関係の源泉として表現する。⇒ 第三種の認識への移行が起こる。

第二種の認識・・・属性は様態に共通な特質であると理解される。

第三種の認識・・・属性は神の実体の本質を構成し、諸様態の個別的本質を含むものとして理解される。

*属性の一義性の認識